

平成29年 6 月 市長定例記者会見

2017年 5月29日(月)

午後 1 時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 お待たせをいたしました。

ただいまより平成29年 6 月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

最初に、お知らせを申し上げます。記者クラブのほうに異動がございまして、本日初めてこの会見に参加されます記者の方をご紹介します。

【記者】 (挨拶)

【秘書広報課長補佐】 ありがとうございます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表に係る質疑応答終了後に次第の 3 番目、フリーの質疑応答へと進みたいと思っております。なお、ご質問の際は、お手数ですがご自席の前のスイッチを入れていただき、ご質問の後は切っていただきますようお願いいたします。

終了は14時30分を予定しております。ご協力よろしくお願いいたします。

それでは市長、お願いいたします。

【市長】 皆さん、こんにちは。6月の定例記者会見ということで、どうぞよろしくお願いいたします。

今回は事業発表として6項目ありますが、6月の補正予算案の概要についてということと、それから市庁舎の建設候補地に係る市民説明会の結果ということも報告事項に入っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【秘書広報課長補佐】 それでは、事業発表をお願いいたします。

【市長】 事業発表 1 つ目が、平成29年度 6 月補正予算案の概要についてでございます。

今回の補正予算につきましては、国、県補助金の内示決定に伴うものや、早急に対応すべき公共施設の修繕など、当初予算以降に予算措置が必要となったものを計上いたしました。

まず、本市が国の景観まちづくり刷新支援事業のモデル地区として指定されたことから、この支援対象事業として、駅利用者の利便性向上、敦賀の玄関口としての拠点機能強化のために立体駐車場等の整備費を計上するとともに、観光客の利便性、回遊性の向上、二次交通の充実につなげるためのレンタサイクル拠点や観光案内看板の整備に係る経費を計上いたしました。

また、一般廃棄物最終処分場の整備について、地元区から調査等に関する基本的な合意をいただきましたので、基本計画、調査等に係る経費を計上いたしました。

角鹿中学校区における小中一貫校の設置につきましては、老朽化する学校施設への対応や児童生徒のよりよい学習環境の向上を目指し、平成33年度の開校に向けて着実に整備を進めるため、基本計画策定や設置準備委員会開催に係る経費を計上いたしました。

そのほか補正予算の主な事業として、総務費では、市庁舎の建設について幅広い知見から候補地選考を行うための委員会開催経費及び各種調査費を計上いたしました。

民生費では、民生委員児童委員の負担軽減を図るため、民生委員児童委員の支援員を配置するための経費を計上いたしました。

商工費では、南越前町、長浜市と共同で鉄道関連遺構や観光地を紹介する広域観光ガイドブックを作成する経費を計上いたしました。

土木費では、補助額の内示に伴う道路改良工事費や昨シーズンの降雪期に故障した消雪施設の補修経費等を計上するとともに、駅西地区土地活用エリアにおける民間資本を活用した整備を具体化するための経費を計上いたしました。

教育費では、少年自然の家における空調設備の改修に係る工事費を計上いたしました。

また、現在進められている氣比神宮大鳥居修復に伴い、一旦取り外された^{へんがく}扁額を市民の皆様に見学いただくための展示に係る経費を計上いたしました。

企業会計では、水道事業会計において、当初予算に引き続き、重要給水施設への配水管の耐震化を吉河地区で実施する工事費を計上するとともに、上下水道料金に係る窓口業務等の包括的外部委託契約に向け、債務負担行為を計上いたしました。

以上が今回の補正予算の概要です。

続きまして、平成29年度水防訓練の実施についてでございます。

敦賀市及び敦賀美方消防組合では、出水時期を迎えるに当たり、水防体制の強化及び水防技術の習得を図り、あわせて地域社会における水防の重要性の認識を高め、本市における水防活動体制の充実を図ることを目的に水防訓練を実施します。

日時は、平成29年6月3日土曜日10時半から12時まで。訓練場所は、敦賀市古田川の二級河川、笙の川右岸及び古田川公園。訓練参加者は、総数156名を予定しております。このうち一般参加者として栗野地区住民20名に住宅浸水防止工法の訓練に参加していただき、基礎技術の習得を図っていただきます。

詳細につきましては、水防訓練実施計画のとおりでございます。

続きまして、平成29年度政策推進プロジェクトについてであります。

平成29年度政策推進プロジェクトにおいては、若手職員の新たな発想を市政に取り入れることを重視し、具体的には全庁の若手職員によるプロジェクトテーマそのものを募集し、メンバーも若手職員が自由に編成できるようにしました。また、次年度予算要求前をめぐりに私と副市長等による審査会を実施し、すぐれた提案につきましては、関係部局へ指示し、予算化するようにしてまいりたいと考えております。

4番目ですけれども、平成29年度敦賀市職員採用候補者前期試験の実施についてであります。

職員採用候補者前期試験を実施します。今年度は、大卒程度の事務職及び技師と保育士のほか、社会人枠として民間企業等経験者を募集します。受付期間は6月9日金曜日から23日金曜日まで。1次試験は7月23日日曜日、敦賀市立看護大学で行います。第2次試験は8月下旬。最終合格発表は9月上旬を予定しております。職員募集に当たっては、定員の適正化を念頭に、定年退職等による欠員補充、各年度における採用バランス等を考慮するとともに、IJUターンの推進のため、昨年度に引き続き社会人枠を実施することといたしました。短大、高卒程度の事務職、技師等対象の後期試験につきましては、7月上旬に募集要項を公表する予定であります。

5番目に、平成29年度敦賀市任期付職員採用候補者試験の実施についてであります。

今回募集する職種は、福井しあわせ元気国体及び障スポの大会準備や競技運営業務等に従事する一般事務職です。任期は平成29年8月1日から平成31年3月31日までです。受付

期間は6月9日金曜日から6月23日金曜までで、試験は7月7日金曜日、敦賀市役所で行います。

6番目の庁舎の建設候補地に係る市民説明会の結果についてであります。

各会場に足を運んでくださり、またアンケートにお答えいただいた多くの市民の皆さんに感謝申し上げます。

市民説明会の総括としては、アンケート結果から、現所在地での建てかえがよいと答えた市民が全体の6割、プラザ萬象敷地での建てかえがよいと答えた市民が3割、それ以外及びわからないと答えた市民が1割程度いらっしゃいました。また、重視する選定基準は利便性が4割、安全性が3割、発展性が2割、継続性及び経済性合わせて1割程度でございました。今回の説明のご意見だけでなく、さらに多くの方々からご意見を伺い、議会とともに議論を深め、私自身、建設候補地を熟考したいと考えております。

発表項目につきましては以上であります。

【秘書広報課長補佐】 ありがとうございます。

それでは、ただいま発表いたしました項目について質問を受けたいと思います。

最初に、幹事社さん、お願いします。

【記者】 予算関連で大きく2点お伺いしたいんですけれども。

まず、一般廃棄物の最終処分場の整備についてなんですけれども、金山区で調査するということはもう既に発表されていたんですしたっけ。今回明らかにしたということでしょうか。

【市長】 担当のほうから答えます。

【市民生活部長】 今回調査するというのは、今回初めて発表させていただく項目でございます。これにつきましては、地元区からの調査に係る基本同意が既にごございましたので、今回発表させていただくとともに補正予算に計上させていただきました。

【記者】 あと、調査を予定しているのは、この金山区だけでしょうか。それ以外にもまだあるのでしょうか。

【市民生活部長】 おおよそのところが金山区ということになるかと思いますが、場合によってはその周辺を調査することになりますので、近接区と言いますか、そういうところも一部かかってくる可能性がございます。

【記者】 あと、区からの了解は得ているというようなお話だったと思うんですけれども、何か区の方に対する説明会とかというのは開いたのでしょうか。

【市民生活部長】 それにつきましては、まずは地元のご理解があつてこそその事業でございますので、区の役員の説明、それから区の住民の方を対象とした説明。それから、今回つくろうとしておりますのが従来型の屋外型の施設というのではなく、屋根つきの施設ということを考えましたので、類似施設でありますお隣の美浜町の施設でありますとか、そういうところにも地元の方々お運びをいただいて調査等々の合意を頂戴したという次第でございます。

【記者】 あともう1点。気比神宮の展示なんですけれども、いつからどこでやるということを予定されているのでしょうか。

【教育委員会事務局長】 お答えいたします。

予定といたしましては、28年9月から12月までを予定しています。展示するのは、気比

神宮の境内の中、室内のほうへ、境内の中へ展示させていただくということを予定しています。以上でございます。

失礼しました。29年の9月から29年12月まで。申しわけありません。

【秘書広報課長補佐】 同じく、幹事社さん、いかがですか。

【記者】 市長に。先ほどの庁舎移転問題のことで、住民アンケートの結果ということをお話しいただいたんですが、この結果について、現段階で市長の率直なコメントというか感想というのはいかがでしょう。

【市長】 来ていただいた方が336人ということでございまして、もう少したくさん来ていただけるのかなということはありませんでしたが、私たち、もう少し周知すればよかったなという気持ちはあります。時間的なものも早かったとかいうお話もありましたので。

ご意見につきましては、ご意見がある方がたくさん集まっていたいて、ご意見のない方も結構いらっしゃるんじゃないかなという思いもしたというところであります。

【記者】 6割の方が現在地を支持しているということに対しては、いかがお考えでしょうか。

【市長】 アンケートの結果ですので、アンケートの結果で6割の方が今の場所ということですが、数的にちょっと少ないので、市民の皆さんの全体の意思ということまでは判断できない数字かなと思っています。

【記者】 関連で、最後に。9月までに候補地選定という考えは今のところ変わっていないと考えればよろしいでしょうか。

【市長】 はい。6月の議会で、また市民アンケートなんかも予算計上しようとしていますので、その中で皆さんの意見を聞いてみたり、議会とお話をしたりして決めていきたいというふうに思っています。

【記者】 それは9月まで。

【市長】 そうですね。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社伺います。発表項目につきまして質問がありましたら挙手をお願いします。

【記者】 庁舎関係経費で、現庁舎と萬象周辺の交通量調査が入っているんですが、これはなぜされるのでしょうか。

【総務部長】 交通量調査をなぜするかというご質問だと思います。今回、説明会を市内10地区で回らせていただいて、いろんな方のご意見を聞いた中で、やはりB案のご説明をさせていただいたときに、市民の皆様方から、交通量のことについては非常に多くの方が懸念といいますか、混雑するんじゃないかというご意見をいただきました。そういった中で、実際に、実質的に時間帯に何台通るのかということを調査させていただく必要があるという判断の中で、今回計上させていただいて実施したいという考えでございます。

【記者】 B案の萬象周辺は既に混雑しているのに、さらに混雑するのではないかという住民の声が多かったということですか。それとも市役所が移転したら混雑する懸念があるということですか。

【総務部長】 市民の皆様のご意見は、今もう混雑しているんじゃないかということのご指摘でございましたので、私どもといたしましては、今のご質問の中で、どちらかと言えば今も混雑している中で、さらに混雑するのではないかというご意見が多いものと判断して

おります。

【記者】 さらに混雑する理由。これは市民の意見なんでしょうけれども、なぜさらに混雑するんですか。市役所に来庁する市民の車でということですか。それとも市役所の職員の車で朝夕いっぱい来るからということですか。

【総務部長】 ご意見の中では、市役所の職員が何人いらっしゃいますかというご質問がございました。その中で車を利用されている方も何人いらっしゃいますかというご質問があったわけでございます。そういった中を考えますと、やはり、さらに混雑が多くなるのではないかと。多くといたしますか混雑するのではないかとというご意見だったと認識しております。

【記者】 調査の具体的な内容を教えてください。いつ、どういう調査をするのか。

【総務部長】 詳細については、今検討しているところでございますが、時間帯、あるいは平日、休日帯、そういったものにおけるそれぞれの道路における交通量が何台ぐらいあるのかということを調査させてもらいたいと考えているところでございます。

【記者】 交通量調査して、それを何に使うんですか、結果を。これぐらいの交通量がありますよ、はい、そうですかとなるんじゃないですか。この調査で何を市は言いたいんですか。

【総務部長】 市民の皆様がいろいろと懸念されていることに対しての現状把握をまずするべきという考え方でございます。

【記者】 現庁舎周辺も調査する理由は何ですか。

【総務部長】 現庁舎のこのあたりですか。

現実的に、こちらのほうもどういった交通量があるのかということのも必要性があるのではないかと思う中でやるわけでございます。それと、先ほど調査の内容で休日ということも言いましたが、これは平日だけでさせてもらいたいと考えております。

【記者】 いつやるかは、まだ決まってないんですね。詳細は。

【総務部長】 はい、まだそこは未定です。

【記者】 あと、選考委員会、委員数16人で回数3回なんですが、この委員はどのようなメンバー、有識者何人とか地元何人とか決まっていますか。

【総務部長】 メンバーの選考につきましても、今現在検討させていただいているところでございます。そういう状況でございまして、今現在決まったわけではございません。

【記者】 委員会の位置づけなんですが、候補地を1カ所に決めるんですか、委員会で。それとも、それぞれの案について委員会で議論した内容を市長に答申して、市長が最終的に1カ所に決めるんですか。市長、お答えいただけますか。

【市長】 委員会につきましては、各種委員会を、いろんな種類の委員会で偏らないようにということと委員さんを選ぼうということをしています。その中で、A案、B案のほかにも案が出ていますので、そういうことも含めて検討いただきたいと思っています。その中で交通量調査とか話題になったことがありますから、そういうことについては予算取りして調べて提示できるような形をしたいと。公平に判断できるような資料をつくっていききたいというふうな位置づけです。それを私が受けて、アンケート結果もありますし、委員会の議題の中の決議内容もあると思いますので、それをもう一回、私のほうで受けとめて判断したいと思っています。

【記者】 委員会で一つの案に絞り込むところまで持っていくんですか。

【市長】 できればそういうふうをお願いしたいと思っていますが、必ずそうなるとは限らないので。委員さんもそれぞれお立場があったりいろいろな考え方があるでしょうから、その結果を見てということになるかと思います。

【記者】 その結果は、市長が答申を受けるという形でいいんですね。

【市長】 はい、その予定です。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

【記者】 関連をお願いします。

改めて、萬象案、B案をこししの3月に提案した意図というか、狙いをもう一回教えていただきたいというのが1点と、もう1点は、アンケートの中で利便性を重視するという人が非常に多い中で、そうすると、やはりそれぞれが自分が行きやすいところというふうになってくるわけで、どこになっても全員が納得するというのは非常に難しい。そのあたりはどのように、落としどころというか、市民が納得するようにしていくおつもりか、お答えください。

【市長】 萬象案が出たということにつきましては、今の場所の建てかえを考えていくときに、それだけでいいのかということがあって、やはり次の世代を考えたときに、敦賀市、一番いいのはどこだろうということをみんなで考えるべきだろうということがありましたし、その中で萬象という一つの選択肢もありますよということで投げさせていただきました。

こうやっていろんな意見が出てきますけれども、市民の皆さんがいろいろ考えることは非常に大事なことだと思っています。ご意見をいただくのも大事なことだと思っていますので、そういう意味では、この中で議論をしながら一つの形ができればいいなと思っています。

ただ、今おっしゃるように、各地区で、地区別に分けますと、地区ごとの意見というのがやっぱりそれぞれの地区に利便性が高そうなところを選ばれていますので、そういう意味では、敦賀市全体として何が一番必要なのか、大事なのかというのをもう一回考えていただくチャンスになればというふうに思っています。

【記者】 現時点の市長の希望というか腹案みたいなものというものはあるのでしょうか。

【市長】 私は自分の希望はありますけれども、今やろうとしていますのは公平にやろうとしていますので。ですから説明会にも私、出ていませんので。私が説得してこっちに傾けていこうという気はないわけなので、そういうことをせずに今はいようとしております。

【記者】 確認なんですけれども、選考委員会の中に8月下旬をめどに候補地案の確定に向けて協議とありますけれども、8月下旬には、この選考委員会で候補地案をもうまとめるということでしょうか。

【市長】 はい。

【記者】 それを受けて市長が9月に決めるという流れですね。

わかりました。

【記者】 市庁舎の建てかえに関して、選考委員会16人程度でということですが、選考委員の候補地を絞るという責任が結構重いというところで、幾ら各種団体の代表といってもなかなか絞り切れないんじゃないかなと思うんですが、あくまで答申を受けるという。市

長が入ってとかいう形にはならないということですか。選考委員会の位置づけをもう少し。かなり責任が重い、重大なところになると思うので、考え方を教えてもらいたい。

【市長】 選考委員会の中で私が行って自分の意見を述べるということはないと思います。ですから、あくまでも客観的な資料をお出しして、その中で積み上げていって判断していただくというスタイルでいきたいと思っています。結果として、ここがいいということにならないかもしれませんが、それはそれで尊重して、いろんな意見が出ると思いますので、拝見したいと思います。

【記者】 庁舎の建てかえに関してなんですけれども、市民説明会の意見を受けて交通量調査をすると。ほかに、その説明会の中で有意義だと思う意見というのはどういうものがありますか。市長、もしあればお答えいただきたいんですけれども。

【市長】 言っているかどうか、ちょっとわからないんですけれども。防災面で現庁舎が優位ということを敦賀市はずっと判断として上げておりますけれども、災害のレベルということを考えたときに、災害というのは、要は台風が来たとか雨が降りそうだとか火事が起きたとか、そういうときには近いほうが確かに便利なんですね。ですからそういう優位ということを言いますが、非常に強い災害が来たとき、津波が来たとか大地震が来たとか、そういうときには、一つのところに集まっているほうがいいのか、分散したほうがいいのかということになってきますと、分散したほうが安全性は高まるだろうということでは思いました。ですから、説明会をして市民の皆さんのご意見を聞いて、報告を受けている中で、要は災害というのは、どんな災害によってということを見ると、その優位性というのは変わるものなんだということを感じたところです。今回の検討委員会の中には防災の専門家の先生も入っていただきますので、その辺も明らかにしていただきたいなと思っています。

【記者】 先ほど幹事社質問にあった廃棄物の計画地の金山という地区名を市が公表するのは、きょうが初めてということでもいいんですか。

【市民生活部長】 はい、そのとおりでございます。

【記者】 金山のどこですか、計画地は。

【市民生活部長】 イメージしやすいのは、金山の、こっちから行きますと旗護山トンネルで美浜町に抜けますけれども、その周辺ぐらいと思っていただければ結構かなと思います。

【記者】 トンネルの手前の周辺。

【市民生活部長】 もちろん、そうですね。

【記者】 敦賀市内の土地ですよ。

【市民生活部長】 はい、そうです。敦賀市の金山です。

【記者】 そうですね。わかりました。ありがとうございます。

【記者】 関連なんですけれども、一般廃棄物の処分場のこれ、美浜町と今後やっていく中での建設工事ということでもいいんですよね。

【市民生活部長】 そのとおりでございます。ご承知のことと思いますけれども、ことしの2月に一般廃棄物の処理について美浜町と協定を結ばさせていただきました。その取り組みの一環としまして、今回、敦賀の金山でと思っておりますけれども、その建設も一緒にやっというじゃないかということで取り組んでおります。

【記者】 これは美浜町と何か同意というか、立地場所に対して、そういうものは必要なんですか。

【市民生活部長】 美浜町のほうにも既に、こういうふうになりましたということについてはお伝えはしてあります。特に異論はございません。

【記者】 補正予算の関係なんですけれども、駅前の立体駐車場整備事業、8億5000万ぐらいについているんですが、場所がどのあたりで、規模がどの程度のものか、建物の概要など、わかる範囲でお願いします。

【都市整備部長】 立体駐車場の整備については、台数については、昨年の駐車場の需要調査の中で全体的には440台ぐらいというようなことが示されておりますので。駅西、駅東側の配分等については、この調査等の中で実施をしていくというようなことを今考えておりますし、場所につきましても、いろんな出入りの状況であったりとか、地域の地形も含めて、この調査の中で場所の位置についても決定していきたいというふうに考えているところでございます。以上でございます。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

それでは、次第の3番目。フリーの質疑応答へと行きたいと思います。こちらも幹事社さん、よろしくお願いします。

【記者】 市長にお伺いします。もんじゅ関連なんですけれども、先日、文科大臣が県庁にいられて、知事と市長が応対されたと思うんですけれども。確認なんですけれども、もんじゅの廃炉について、市長は現時点で了承されているのか、されていないのか。

【市長】 廃炉にするという突然の政策変更に関しては、国策に協力してきた地元としては、まだ納得はしておりません。先日、大臣から廃炉措置体制や使用済燃料、ナトリウムなどの搬出、原子力研究人材育成拠点などに対してご報告をいただき、政府としての決意は感じ取られたところでありますが、今後、それぞれについて我々とも十分に協議をしながら具体化し、しっかりと示していただくことが大事であると考えています。

【記者】 これも確認になるんですけれども、市長がいつも言っておられる核燃料の搬出であるとか、そういった3点の要求といいますか、それにきちんとした回答がない限りは了承しないという認識でよろしいでしょうか。

【市長】 特別な体制のもとで安全かつ着実に廃止措置を進めていくことに加えて、使用済燃料やナトリウムの敷地外への搬出や、約1000人の雇用に対する配慮に関しては、政府が責任を持って取り組むということは地元に対して約束をいただいたものというふうに捉えています。その中で、どれだけ具体的になっていくかということに入っていくのかなと思っています。

【記者】 了承されるタイミングなんですけれども、例えば、機構が基本的な廃炉の計画というのを出示してきたときなどになるのでしょうか。

【市長】 今後としますと、廃炉体制ということに対しての具体化が行われると思っています。基本方針、基本計画が示されてくるんだと思います。その中で、だんだん廃止措置体制についても具体性が出てくるのかなと思いますので、その中で、どのタイミングということは言えませんが、判断していくということになるかと思います。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社伺います。ご質問がありましたら挙手をお願いします。

【記者】 今のもんじゅの関連なんですけれども、政府のほうでは、もんじゅの敷地内に試験研究炉を設置するという考えを出しているんですけれども、県のほうは、もともともんじゅの廃炉以前から、場所は別として試験研究炉の必要性は訴えていたわけなんですけれども、この試験研究炉の設置について、市長は賛成なのか、それとも反対なのか、もうちょっと詳しく市長の思いをお伺いしたいんですが。

【市長】 試験研究炉というと研究開発みたいな感じがあるんですけれども、今回話に出ている試験研究炉というのは、もんじゅのような発電のための研究開発を行うものではなくて、大学の教育研究や企業の人材育成のツールとして活用するものということで、主に教育を目的とした炉というふうにイメージして理解したところです。ただし、まだ具体的な規模などがわかりませんので何とも言えませんけれども、今後の具体的な仕様など検討に当たっては、地元の意見はもちろんのこと、実際に利用されるであろう大学や研究者の意見も十分に取り入れて慎重に検討していただきたいというふうに考えておりますし、そういうふうにお伝えしたところです。

【記者】 もんじゅの関連なんですけれども、県庁で文科大臣とのやりとりの中で、知事が今後もんじゅの関連協議会を改組して、新たな協議会で地域振興について話し合っていきたいというような要望を大臣側にしたんですけれども、敦賀市としてもこの協議会に入りたいというような考えはあるのかどうか。

【市長】 地域振興についての協議会を立ち上げるというお話がありましたので、今後どうなるか、これから待たなくてははいけませんけれども、もし立ち上げるのであれば敦賀市も入れていただきたいというふうに思っています。

【記者】 私ももんじゅなんですけれども、先日、大臣から廃炉の体制が示されて、ほぼほぼ確定していて、先日、廃炉の推進チームのほうが官邸のほうで立ち上がりまして、これから方針、基本的な計画と進んでいくと思いますけれども、ついに動き出したなという、停滞していたもんじゅの議論が一步ずつですけれども進んできたなというような感じがあるんですけれども、こういった動きの中で、市長として今後、国に改めてどういうことを求めているかというのを改めてお聞かせいただければと思います。

【市長】 今の改組しという体制につきましては、大がかりな枠組みについてはお示しいただきまして、わかりましたけれども、それがじゃあ具体的にどうなっていくのか、また実際にそれが動いていくのか、機能していくのかということは、まだしっかりわからないわけなので、それはこれから詰めていかれるものだというふうに思っています。

もう一つ、先ほども言っていましたけれども、使用済燃料や使用済ナトリウム、1000人の雇用ということを申し上げていますので、それについては政府としてしっかりやっていくということを言っていましたけれども、じゃ具体的に、それがいつどのような形でできるのか、いつまで1000人の雇用をするのかということも、今から具体的なものをつくっていただいて、早期に示していただきたいというふうに思っています。

【記者】 続いてなんですけれども、もんじゅの話からそれなんですけど、もんじゅとも関係するかもしれないのであれなんですけれども。最近ちょっと話題にはなっているんですけれども、高浜町の野瀬町長が使用済核燃料の件に関して、福井市のほうでぶら下がり取材のときにもおっしゃっていたんですが、関西電力が2020年までに候補地を決めてということで期限が迫っているというのもあるんですが、期限が迫るようであれば、乾式貯蔵で

敷地内にといいことも、受け入れるというよりは議論の俎上^{そじょう}に上がってくるのではないかという発言をしていまして、今話題にはなっていて、知事もこの間、基本県外でという考えを改めて示されましたけれども。市長は全原協の会長でもあるので、その点に関して、使用済核燃料の、福井県に限れば県外でというのは基本だと思うんですけども、改めて市長として、全原協の会長として、中間貯蔵の方法について、お考えをお聞きできればと思います。

【市長】 使用済燃料の問題につきましては、全原協としてもかなり以前から問題意識を持って検討を続けてきています。国に対しては、サイト外への早期搬出やサイト外での中間貯蔵施設の建設等を強く要望しております。全原協としては、一時的な保管方法として敷地内での乾式貯蔵自体は否定しておらず、現に福島第一や東海発電所では乾式貯蔵が行われており、浜岡発電所や伊方発電所でも敷地内での乾式貯蔵が検討されているというふうに聞いております。

乾式貯蔵については、リスクの観点から理解できる面もありますけれども、しかしながら、搬出先がはっきりしない状況では、単に貯蔵容量の増加を許すだけであり、また長期にわたる保管につながる懸念もあることから、私自身は現時点では敷地内での乾式貯蔵を受けるということは考えておりません。

今おっしゃったとおり福井県も考えていませんので、よそでつくっていただきたいと思っています。

【記者】 今の関連なんですけど、立地以外の県外で中間貯蔵できると市長は思われますか。

【市長】 それは、それぞれの県、市町の考え方ですので、できるところもあるんじゃないかなとは思いますが、私はどこということとはわかりません。国として一生懸命探していただければいいと思っています。

【記者】 乾式貯蔵に対する今の回答で、現地点で受けるとは思っていないという発言は、敦賀市長としてのコメントということでいいですか。

【市長】 私の回答です。

【記者】 わかりました。確認だけです。

【市長】 今の乾式貯蔵の話ですけども、乾式貯蔵で、最後も私どもが受け入れなくてはいけないだろうというご意見も立地の首長さんはあろうかと思います。ただ、私が思いますのは、原子力発電所をやってきて、地元もリスクを負いながら潤ってきましたけれども、国全体も潤ってきたと思いますので、国全体で潤ってきたものの後始末はみんなするべきだろうというのが基本的な考え方で、ですから立地以外で受け入れてくれてもいいんじゃないかということを思っています。

【記者】 関連してなんですけれども、そういう中で、高浜の町長がそういう発言をされたことに対してはどう思われますか。

【市長】 それはそれぞれのお考えですので。立地の首長、それぞれいろんな考え方を持たれていると思っていますので、私がコメントする立場にないと思っています。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これもちまして6月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。ありがとうございました。

午後2時15分 終了